大学編㉒ 最新事情

考える力・書く力を学生に身に付けさせたい

甲南女子大学（兵庫県神戸市）

「清く 正しく 優しく 強く」を校訓とする甲南女子大学は、前身である甲南高等女学校の創立から数えると90年の歴史を持つ。人に尽くし、社会に貢献する女性を育成するという女子教育の伝統に加え、近年は、就職活動を乗り越えるための基礎力養成にも力を注いでいる。就職課と資格サポートセンターの取り組みを中心にお話を伺った。

山の斜面に建つ
甲南女子大学キャンパス

自分自身や社会について「考える」機会を増やしたい

神戸の街を見下ろす高台にある甲南女子大学キャンパス。ここで学ぶのは文学部、人間科学部、看護リハビリテーション学部合わせて4000人を越える学生たちだ。

同学では平成19年に正規科目として「キャリア形成支援プログラム」を開講した。開講に当たっては一つの思いがあった。就職部就職課に異動して7年になるという岡本妙子課長は、就職支援をしているうちに「学生は自分の将来について真剣に考える機会が少ないのではないか」と感じるようになったという。「就職難の折から就職活動がうまくいかない学生は大勢いましたが、理由に気付き積極的に自分を変えられる学生はごく一部。多くの学生は面接で話ができなくても、自分が話せていないことに気付いていませんでした。就職活動はそれ自体が自分自身について気付きを得るよい機会。そこで魅力を発揮できず、改善方法も見つけられないのは、やはり自分で考える機会が少なく、力が付いていないからです。考える習慣と力があれば、就職活動以前に自分の進路を決めるとき、この先何かあったときにも、真剣に悩んで結果を出すことができるはずです」。

この思いが、同プログラム実施のきっかけの一つとなる。以前から1、2年生向けのキャリア教育科目はあったが、それを引き継ぐ科目がなく、就職活動目前になるまで将来について考える機会がなかった。そこで、全学年を通して力を積み上げていけるようなキャリア教育科目ができないかと考えたのだ。

カリキュラムは就職課とキャリア教育担当の教員で検討した。同プログラムはA～Dまであり、A・Bが1・2年生向け、Cが就職活動目前の2・3年生向け、Dは就職活動に特化した内容である。大学での学びや学生生活、仕事や働くことなど、テーマによるディスカッションが中心だが、先輩を招いた講話、内定した学生の体験談発表会なども行っている。

「考える力」のほかにもう一つ、岡本課長が学生に足りない、身に付けてほしいと望んだのは「書く力」である。就職のためだけではない。言葉にして書くことで、考えが明確になり、頭の整理にもなるからだ。

ただ「考える力」「書く力」といっても、何

就職課で制作した「キャリアノート」は1・2年生用と3・4年生用に分かれており，キャリア・デザインの授業やゼミで使用されている

就職課の岡本妙子課長（中）と，資格サポートセンターの西本真理氏（右），田中千裕氏（左）

サービス接遇検定準1級面接対策講座では，講師と資格サポートセンター職員が模擬面接を繰り返す。厳しい指導とできたときの喜びに，学生が涙する場面も

を考えたらいいのか、何を書くのか。そのヒントとして平成21年に就職課で制作したのが「キャリアノート」である。ワークノート形式になっており、さまざまな設問に自分で考えながら答えていくというものだ。1・2年生用は「中学や高校の授業の中で、一番心に残っている先生の言葉を書いてください」「あなたの家の家計を支えている人は、どんな業種の会社に勤めていますか。またなぜその仕事に就いたかを聞き、書いてください」といった、自分自身や身近な現実への理解を深める問いで構成されている。3・4年生用には「あなたが考えるステキな女性の条件を五つ挙げてください」「あなたが卒業までに絶対したいことを、三つ書いてください」など、学生生活を振り返りつつ、近くに迫った就職活動に備え、少し先の将来を思い描くための問いが盛り込まれている。

学科単位の就職ガイダンスで使用したり、独習することもできるこのノートを活用し、「気付きのきっかけにしてくれたら」と岡本課長は期待している。

上位資格に挑戦して自信を付けてほしい

同学では資格取得も将来について考える一つのきっかけと考えている。「資格取得は将来を考える上でそれほど高くない目標」と話すのは資格サポートセンタースタッフの西本真理さんだ。就職課と同センターは、密に情報交換を行い、学生のサポートに努めている。

就業に必要な国家資格等だけでなく、ビジネス系検定にも長年熱心に取り組んできた。特に秘書検定は2級を中心に年間で約280人が受験する人気講座となっている。「学生たちには、素敵な大人の女性になりたい、社会に出る前に女性として必要なマナーを身に付けていたいという〝女性心〟があるのでしょう。秘書検定はその第一歩になると感じているのではないでしょうか」と岡本課長。その熱意もあって、同学は団体優秀賞を幾度も受賞するなど、毎年優秀な成績を収めている。

「秘書検定は、『何か資格を取って将来に生かしたいが、将来はまだそれほど見えてない。でも何か目標を立てたい』という学生に勧めています」と西本さん。同じく資格サポートセンターの田中千裕さんは「秘書検定、サービス接遇検定はどんな職場でも役に立つ知識が網羅されているので、アルバイトなどで『こんなところで役に立ちました』とすぐに実践して報告してくれます。張り合いがありますね」と話す。

3年生の八木涼子さん、八木瑶子さんは、ともに1年生の時から「今、学べる資格は何か」と相談し、さまざまな検定に挑戦してきた。これまでに秘書検定・ビジネス文書検定は2級、サービス接遇検定準1級に合格している。

「秘書検定、サービス接遇検定で学んだことで、『拝見する』『拝聴する』とか、電話が聞き取りにくい時は『少々お電話が遠いようです

最新事情㉒……甲南女子大学

日本語日本文化学科３年生の
八木涼子さん（右）と八木瑶子さん

が』と言うなど、普通に学生生活を送っているだけでは使わない敬語などが身に付きました」と涼子さん。瑶子さんは「アルバイトで塾講師をしていますが、保護者の方と接するときに、秘書検定やサービス接遇検定で身に付けたマナーが役に立っています。他の人と違うと実感できるとうれしい。電話も進んで取れるようになりました」と話す。大学ではホスピタリティを学び、観光業に興味があるという二人。ビジネスマナーや接客などこれから役立てることができそうで楽しみだと笑顔を見せる。

資格取得について、岡本課長は次のように話す。「学生はよく『この資格を取ると就職に有利ですか』と聞いてきます。私はいつも『いいえ、有利ではありません』と答えます。秘書検定を持っていない人の方がしっかりと受け答えをしていたら、当然そちらを採用しますよね。学ぶことは大事ですが、そんなに短絡的なものではありません。でも、その資格をより生かしたいというのなら、上位級やレベルの高い資格に挑戦することで自分を鍛えてほしい。その経験は必ず自分の力になるはずです」。

考える力を付けることと、資格取得を通じて具体的に学ぶことが両輪となり、就職のための素地ができる。「この関係がもっとはっきりとして、成果につながることを期待しています」と話す岡本課長に、西本さん、田中さんも大きくうなずく。

女性として生きる力を学ぶビジネスウーマン塾

就職課では今年、新たな取り組みとして3年生対象の「ビジネスウーマン塾」を開設した。

学生たちは仕事や就業に不安を持っている。それらをさまざまな視点で考えてみる、そして就職に限らずもっと広く社会のことを考え、一人の女性として生きていく上でしっかりとした選択をしてもらいたいという思いで始めたものだ。4月から7月の土曜が講座日で、講師には就職4年目で営業職に就く卒業生や、子育てをしながら起業して社長を務める卒業生、就活の講師や企業の人事担当者など、さまざまな現場の社会人を招いた。

「回を重ねるごとに学生からは積極的に質問が出るようになりました。他の就職支援プログラムで企業の方や講師の方がお越しになったときに、ここで鍛えられた塾生が率先して質問しているのを見ると、成長したなと感じますね」と岡本課長。今年は約90名の学生が参加したが、さらに規模を拡大、内容も充実させ、「この講座で学んだ学生が100％就職できるようなものにしたい」と次年度以降の構想もすでに練られているようだ。

先の学生たちもこの塾に参加しており、「ビジネスウーマン塾参加時は制服を着用するよう決まっており、すっかり制服での所作にも慣れたし、毎回お辞儀や発声の練習があり、自然に身に付きました。先輩から、興味がある企業には自分から積極的にコンタクトを取っていくといいと聞いて、そんなことしていいのかと意外でした」（八木瑶子さん）、「就職活動には早くから自己分析して準備して臨むといいと先輩や先生がおっしゃって、これはビジネスウーマン塾に参加していなかったら気付かなかったと思います。就職活動を前向きに考えられるようになりました」（八木涼子さん）と、塾生として学んだことを語ってくれた。

どの取り組みも、学生自身が気付き、自ら学ぶためのきっかけづくりになっているのが分かる。道に迷う学生は多い。しかし、それを導いていくのが就職課や資格サポートセンターの役割なのだ。「私たちは、機会があるごとに学生と関わる接点を持つように心掛けています。行き詰まったときに一人で悩まず、相談する場所として思い出してほしい。どう歩み出すかのヒントを得るために、私たちをどんどん利用してもらいたいですね」（岡本課長）。

同学の職員には、卒業生も多いそうだ。温かい言葉で迎え、時には厳しくしてくれる職員が、学生たちのよき支援者になっているようだった。

制服着用のびしっとした姿で参加するビジネスウーマン塾。
講師の話に学生たちは興味津々